

令和4年度ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査結果

1 目的

平成29年度から実施している、ユニバーサルデザイン（以下「UD」）に係る職員の認知度を把握する調査によると、UDに対する認知度は平成29年度が54.9%、平成30年度が67.0%、令和元年度が75.9%、令和3年度が77.4%と着実に向上している。

この結果から更なる認知度向上およびUDの実践を図るため、当課では庁内向けの普及啓発活動や研修等の事業を行ってきた。

今般、当課が実施してきた事業に対する評価や、実施した事業が職員の認知度等について与えた影響および実践に向けての課題について把握し、今後の事業の参考とするため、下記のとおり調査を実施した。

2 実施概要

項目	内容
タイトル	ユニバーサルデザインに関する職員アンケート
対象	全職員（3,879人） ※回答数：1,376人
配付・回収方法	desknet's NEO アンケート機能によるWEB回答及び交換便配布による書面回答（保育園職場及び福祉事務所）
調査期間	WEB回答：令和4年10月3日（月）～10月20日（木） 書面回答：令和4年10月3日（月）～10月20日（木）
実施主体	福祉部障がい政策課ユニバーサルデザイン推進係
調査票構成	【問1】年代 【問2】職層 【問3】職種 【問4】UDの認知度 【問5】UDを知った主なきっかけ 【問6】UDの実践経験の有無 【問7】UDの実践の内容 【問8】UDを実践したことがない理由 【問9】UDを実践するために知りたいこと 【問10】UDに関する取り組みで参考になったもの 【問11】自由記述

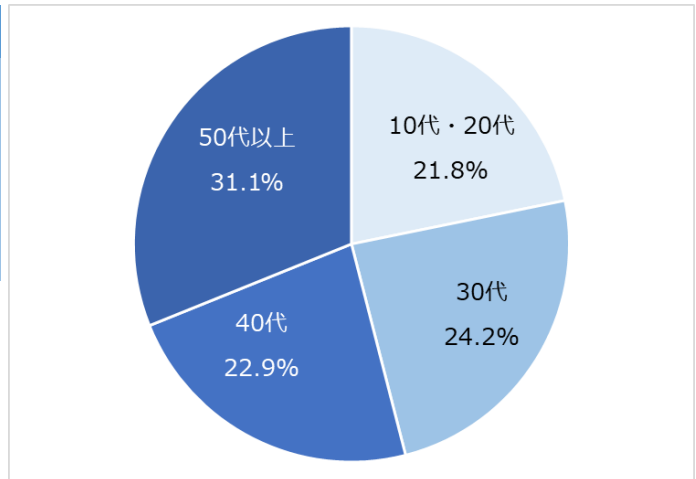
3 集計結果概要 ※単位未満を四捨五入しているため、割合の合計が 100%とならない場合がある。

(1) 属性

① 年代

「50 代以上」と回答した人の割合が 31.1%と最も高く、「30 代」24.2%、「40 代」22.9%、「10 代・20 代」21.8%と続いた。

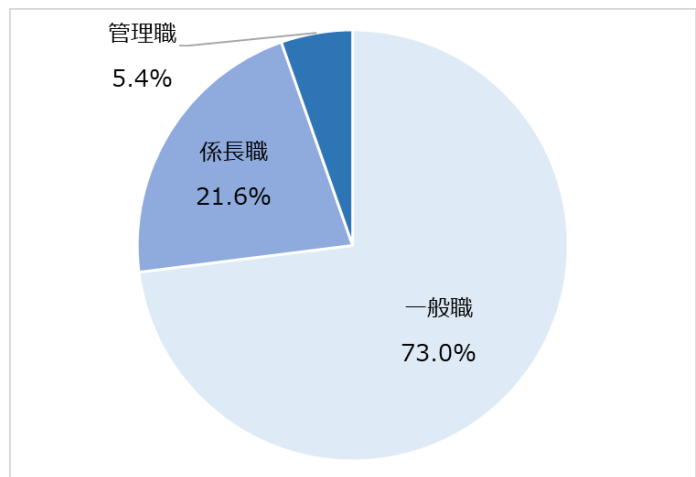
選択肢	人数	割合
10 代・20 代	300	④ 21.8%
30 代	333	② 24.2%
40 代	315	③ 22.9%
50 代以上	428	① 31.1%
計	1,376	



② 職層

「一般職」が 73.0%と最も高く、「係長職」21.6%、「管理職」5.4%と続いた。

選択肢	人数	割合
一般職	1005	① 73.0%
係長職	297	② 21.6%
管理職	74	③ 5.4%
計	1,376	



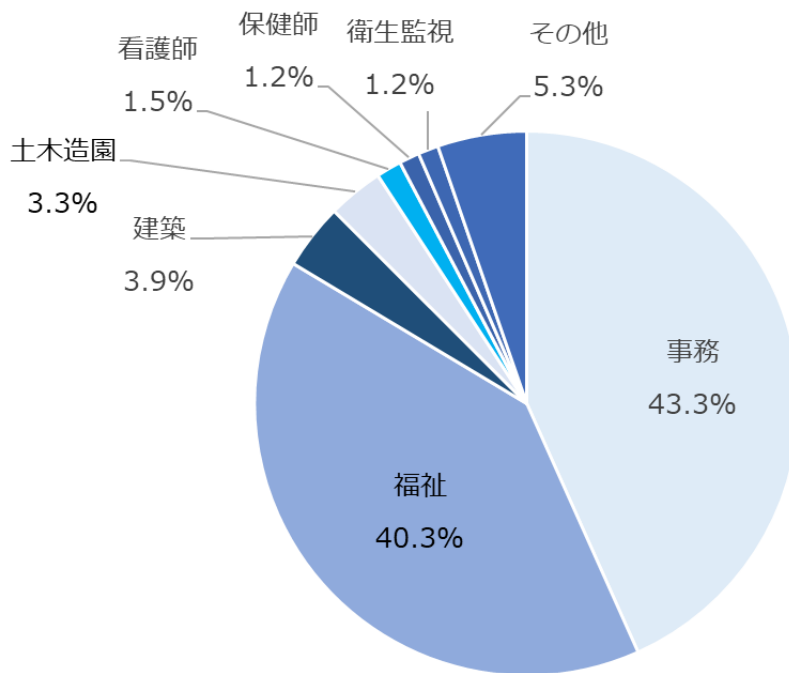
(参考) 職制上の段階ごとの職員数

(参考)	人数	割合
一般職	2,929	75.5%
係長職	843	21.7%
管理職	107	2.8%
合計	3,879	

③ 職種

「事務職」が43.3%と最も高く、「福祉職」40.3%、「建築職」3.9%と続いた。

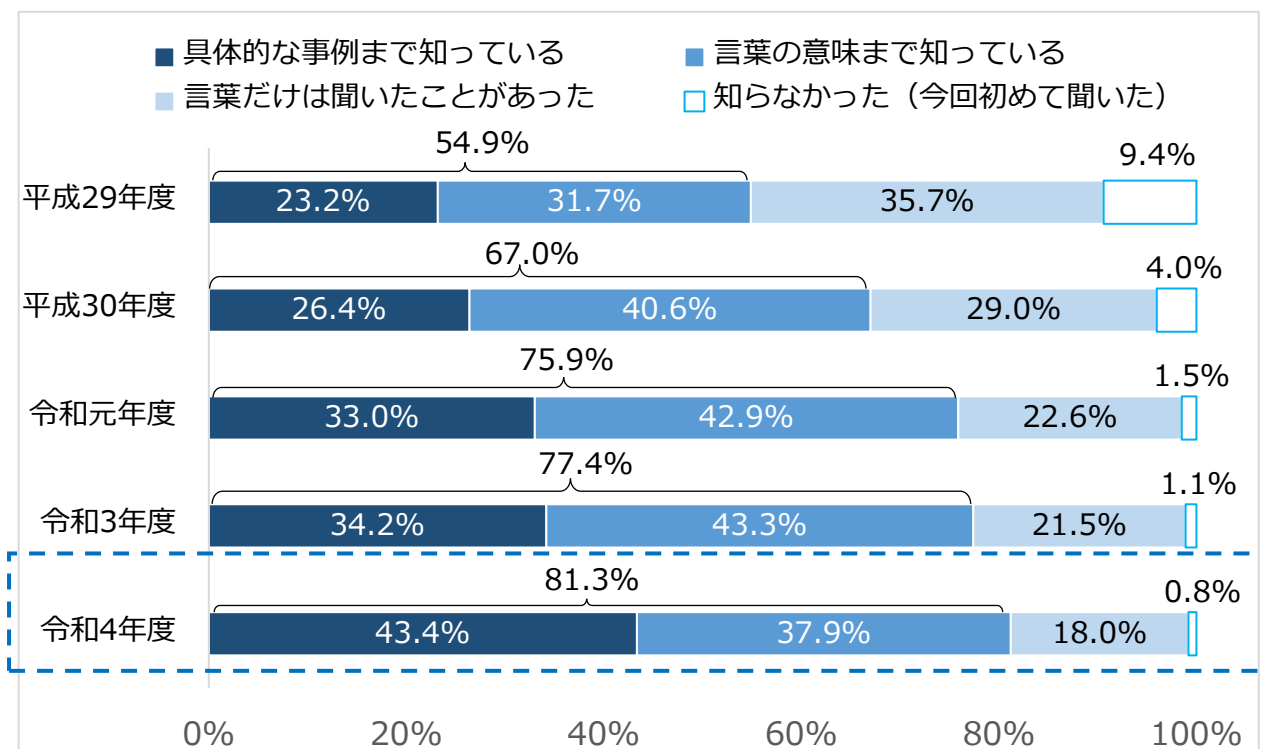
選択肢	回答者数	割合
事務	596	43.3%
福祉	555	40.3%
建築	53	3.9%
土木造園	45	3.3%
看護師	20	1.5%
保健師	16	1.2%
衛生監視	16	1.2%
その他	75	5.3%
計	1,376	



(2) UDの認知度

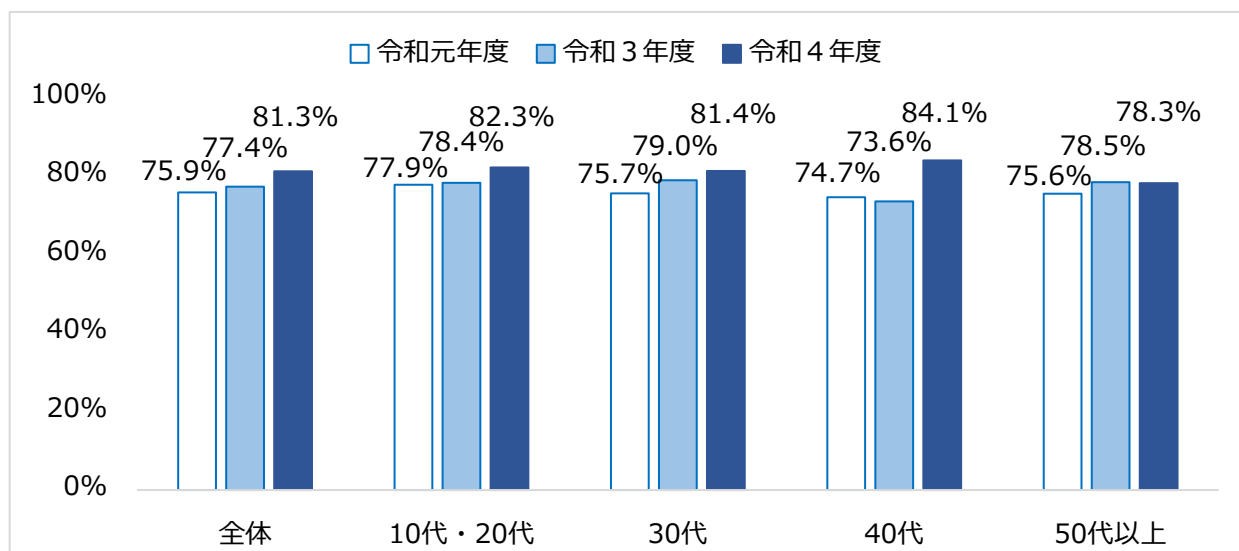
① 回答内訳

- 「具体的な事例まで知っている」と回答した人の割合が43.4%と最も高く、令和3年度（34.2%）と比較すると、9.2%増加した。
- 「具体的な事例まで知っている」と「言葉の意味まで知っている」を合わせたUD認知度は81.3%であり、令和3年度（77.4%）と比較し、3.9%増加している。



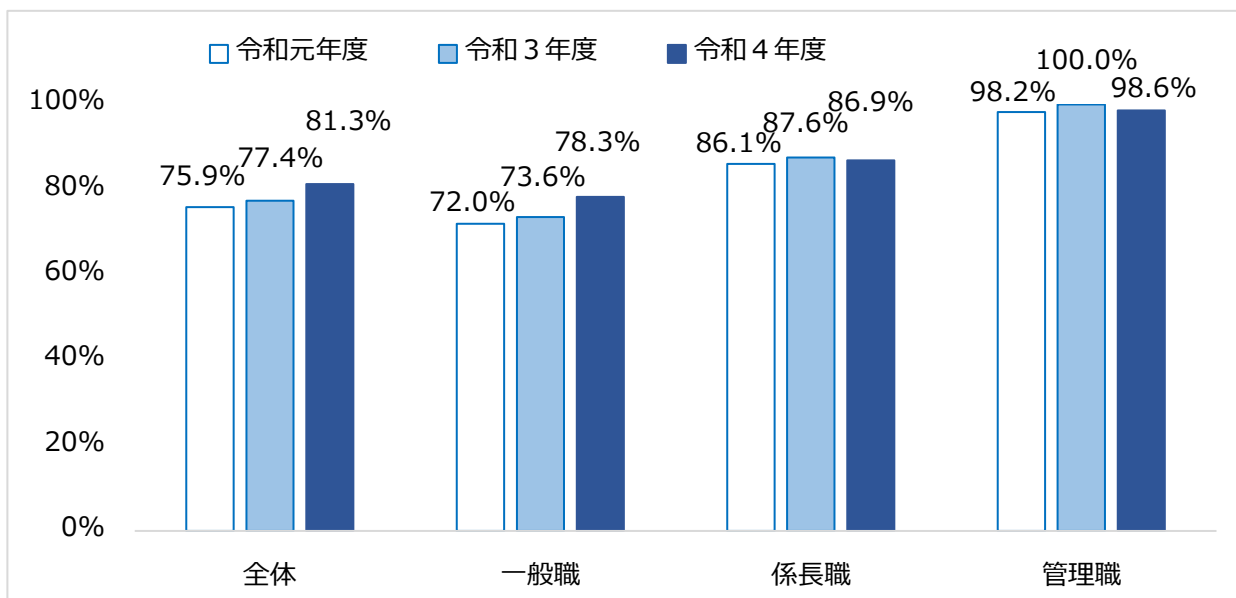
② 年代別比較

- 「UD認知度」について、年代別に比較した。
- 「50代以上」を除いて、すべての年代で前回調査より認知度が向上した。



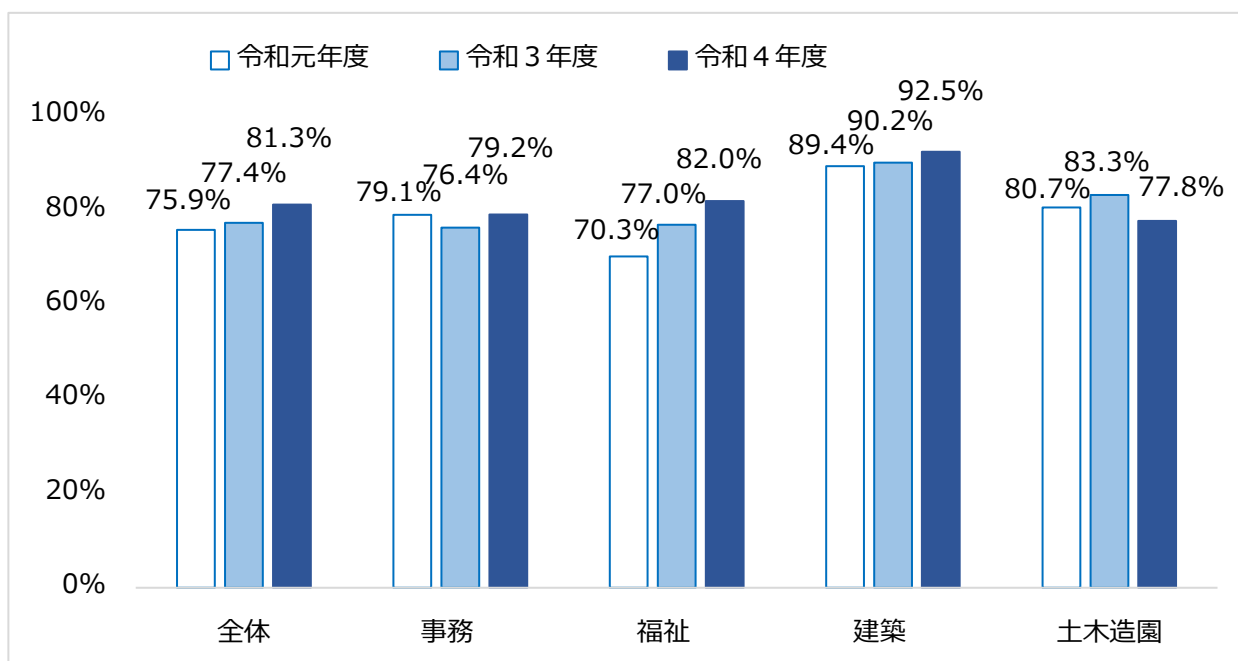
③ 職層別比較

- UD を認知している人のうち、全体よりも高い割合の職層は、「管理職」(98.6%)、「係長職」(86.9%) となった。
- 「一般職」においては、UD を認知している人の割合が 78.3%と全体より低いが、前回調査よりも 4.7%高くなった。



④ 職種別比較

- UD を認知している人のうち、全体よりも高い割合の職種は、「建築職」(92.5%)、「福祉職」(82.0%) となった。
- 一方、全体よりも低い割合の職種は、「事務職」(79.2%)、「土木造園職」(77.8%) となった。なお、「土木造園職」については、前回の令和3年度調査よりも低くなった。

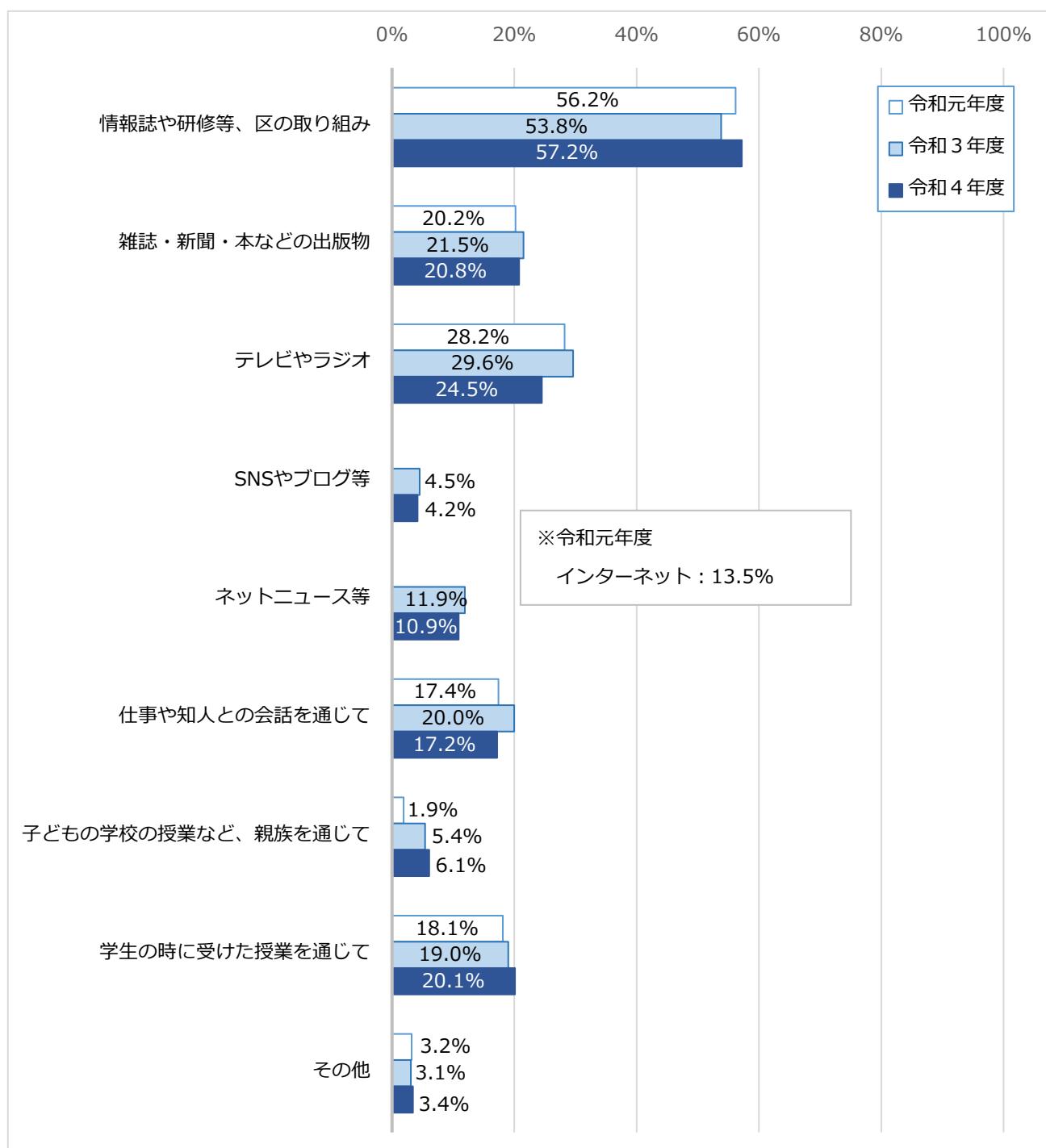


(3) UDを知ったきっかけ（回答は2つまで）

① 回答内訳

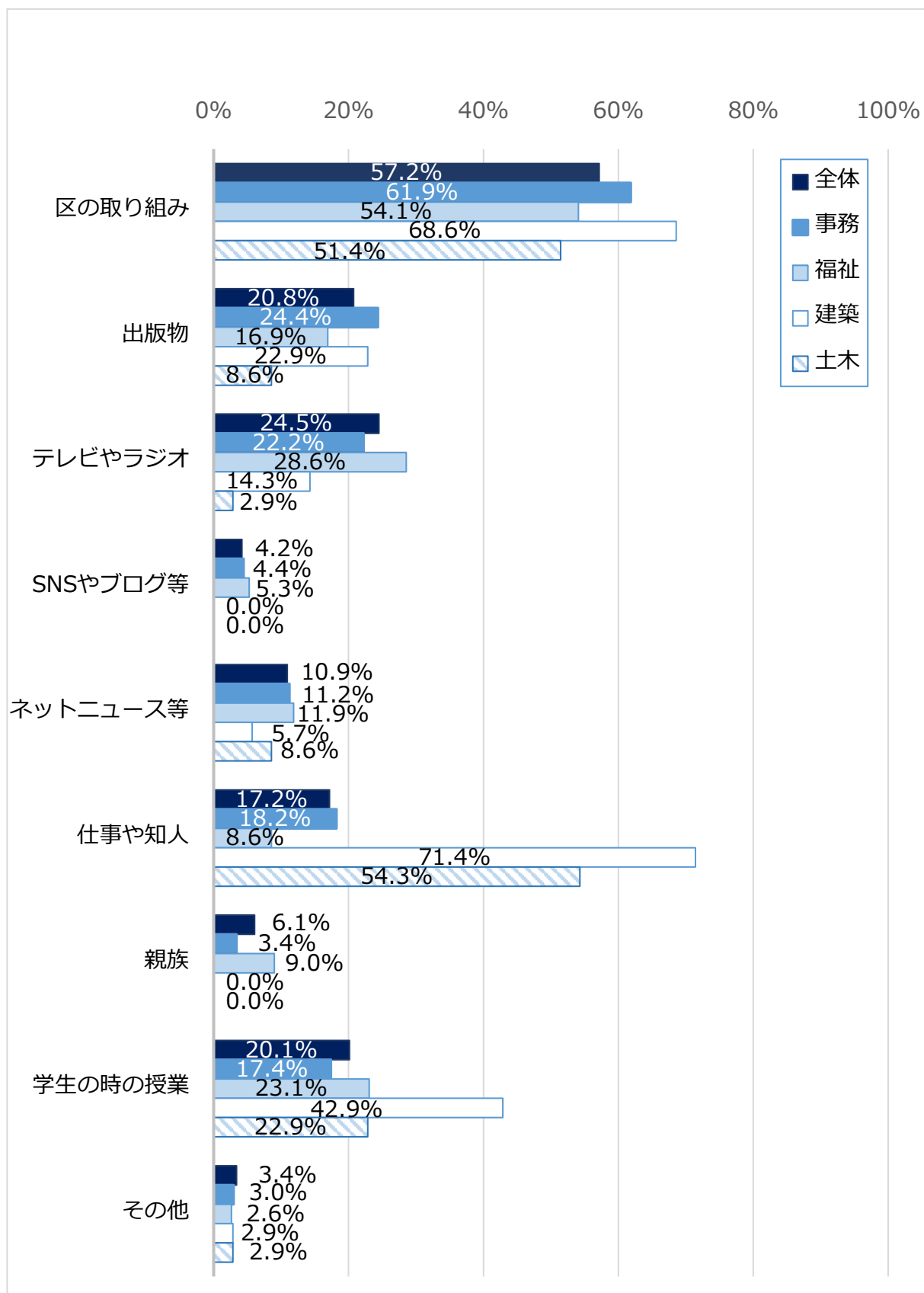
○「区の取り組み」と回答した人の割合は57.2%と最も高く、「テレビやラジオ」が24.5%、「出版物」が20.8%と続いた。

○前回調査と比較すると、「区の取り組み」または「学生の時の授業」と回答した人の割合が高くなった。



② 職種別比較

- 「事務職」、「福祉職」において、最も高い回答は「区の取り組み」であった。
- 「建築職」、「土木造園職」においては、「仕事や知人」がそれぞれと最も高い回答であった。

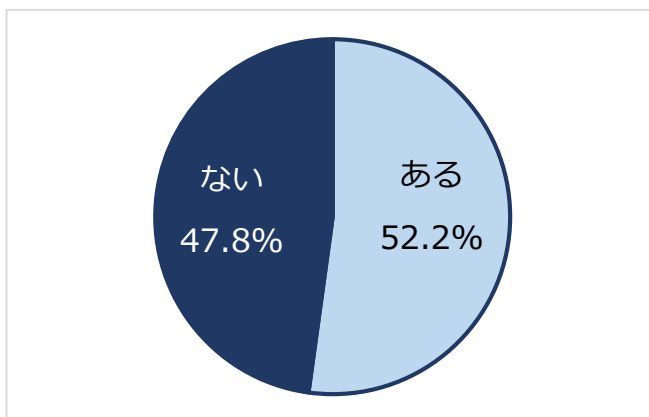


(4) 職務でUDに配慮したり、UDの考え方を取り入れた経験の有無

① 回答内訳

○「ある」と回答した人の割合が52.2%、「ない」と回答した人の割合が47.8%と、半数以上の人々が「ある」という結果となった。

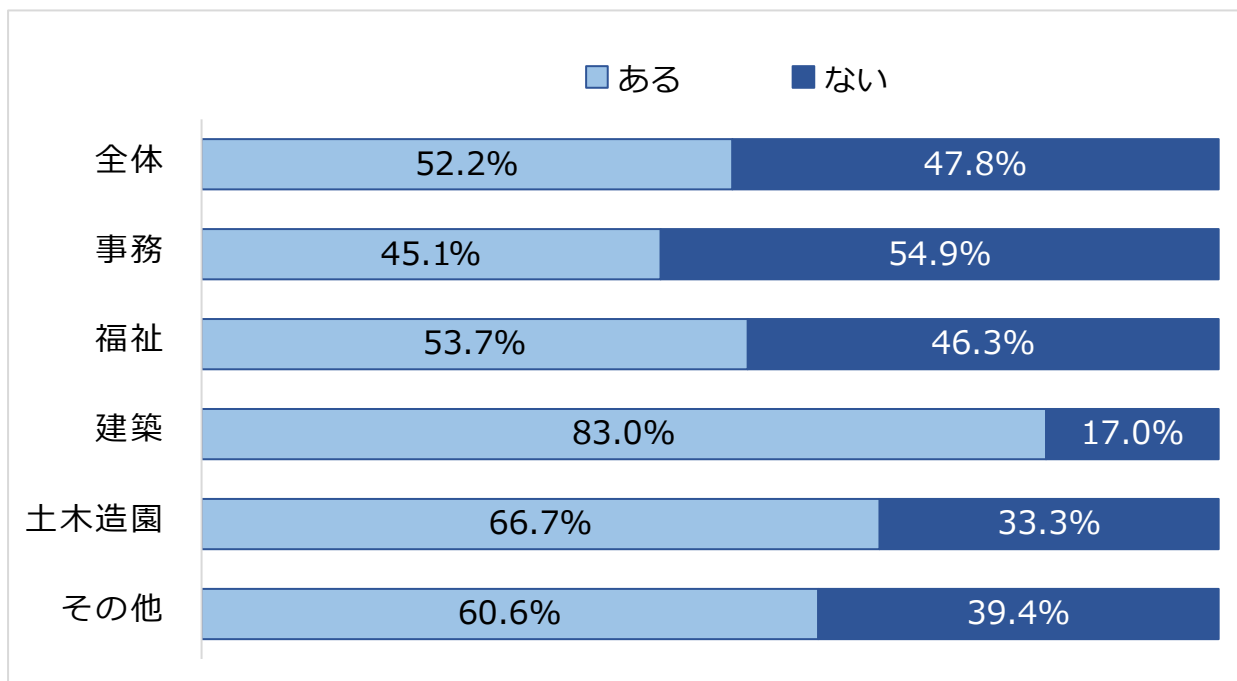
選択肢	人数	割合
ある	718	52.2%
ない	658	47.8%
計	1,376	100%



② 職種別比較

○「ある」と回答した人の割合は、「建築職」が83.0%と最も高く、次に「土木造園職」が66.7%と続いている。

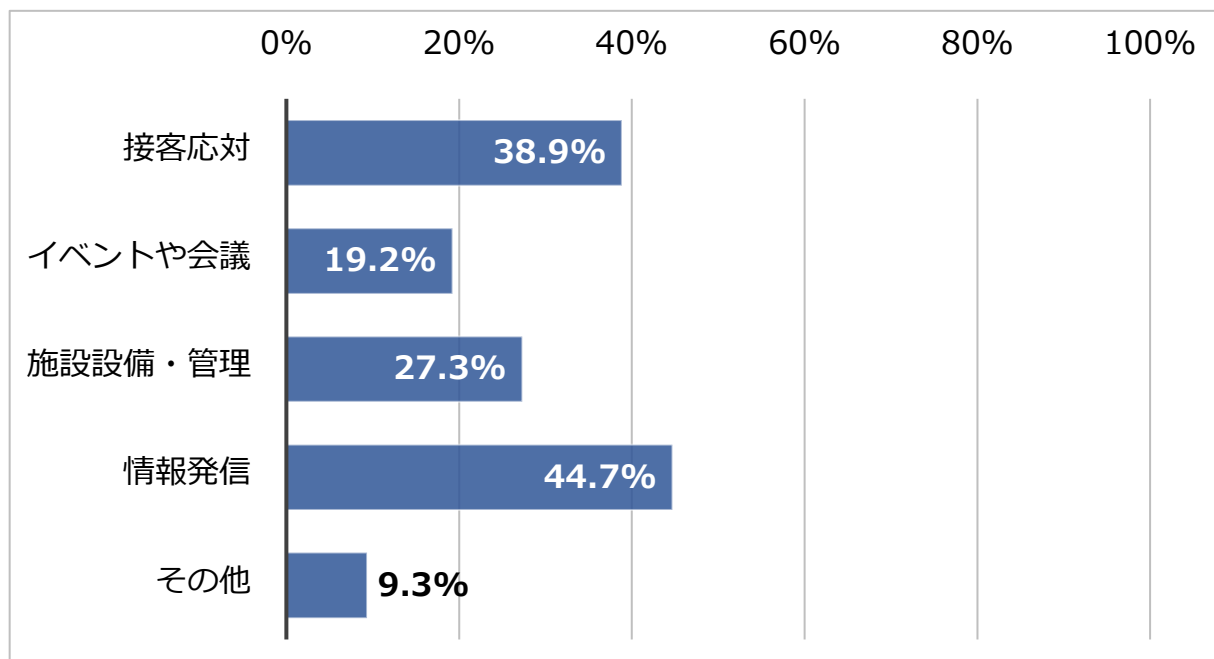
○「ない」と回答した人の割合は「事務職」が54.9%と最も高い。



(5) UD 実践の内容

①回答内訳

- 前の設問で「ある」と回答した人の、UD 実践の内容について聞いた。
- 「情報発信」と回答した人の割合が 44.7%と最も高く、「接客応対」が 38.9%、「施設の設備や管理」が 27.3%と続いた。

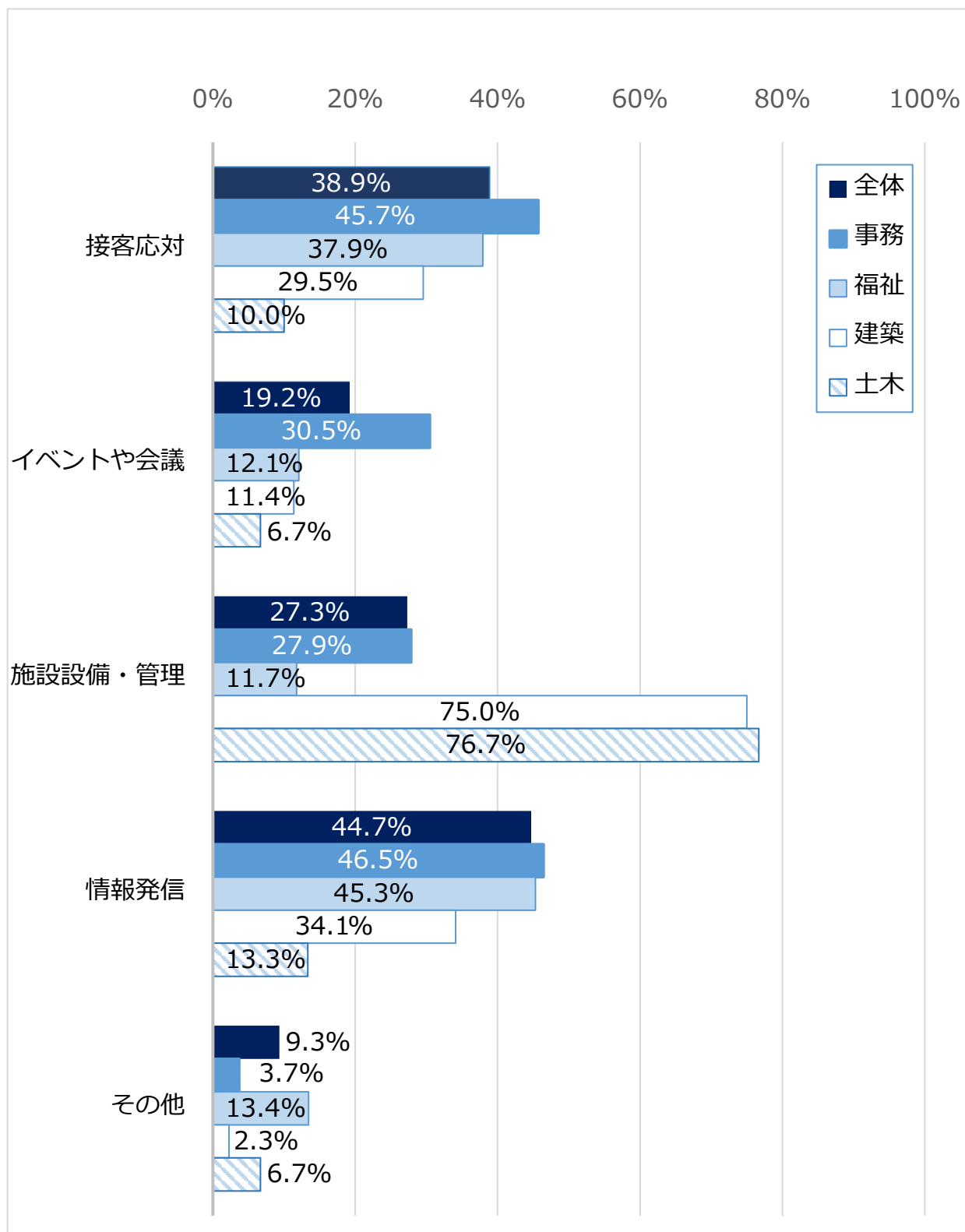


②「その他」の具体的内容

分類	回答内容
接客応対	話す量を少なめに、ゆっくり話すよう意識している
イベント	イベントやセミナーで一時保育や手話通訳の手配、車いす利用者への配慮
	保護者会での通訳やポケトーク使用
施設設備・管理	施設設計及び工事にてピクトグラムを用いた分かりやすいサイン計画など
情報発信	動画作成時、音声のみではなくテロップで必要なことを伝えるなど
その他	当たり前だと思うことが本当に当たり前なのかを考える習慣を意識している

③ 職種別比較

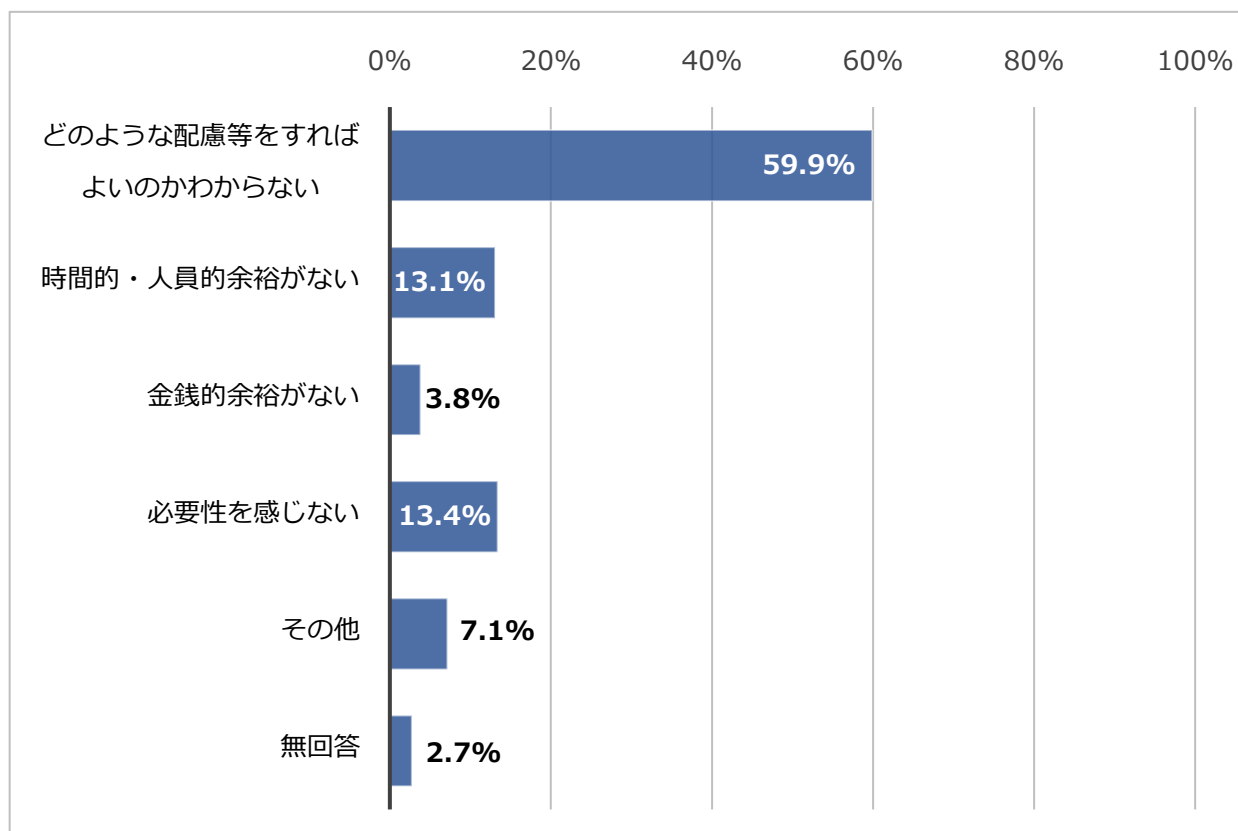
- 「事務職」、「福祉職」においては、「情報発信」が46.5%、45.3%と最も高く、全体の割合よりも高い。
- 「建築職」、「土木造園職」においては、他の職種と比較しても「施設の設備や管理」が75.0%、76.7%と最も高く、全体よりも高い。



(6) UDに配慮したことがない理由

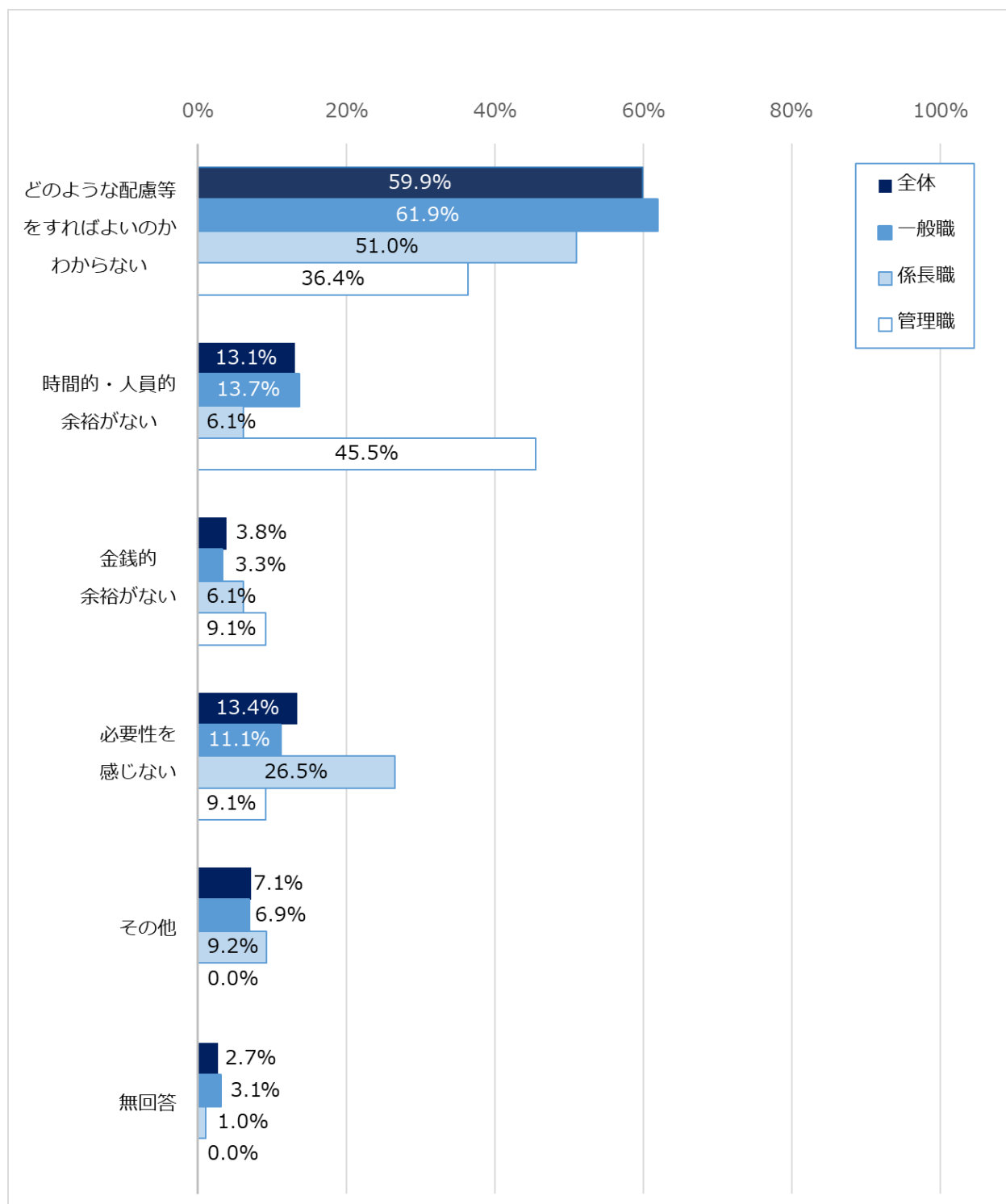
① 回答内訳

○UDに配慮したり、取り入れたことがない主な理由について、「どのような配慮をすればいいかわからない」が59.9%と最も高い割合となった。



② 職種別比較

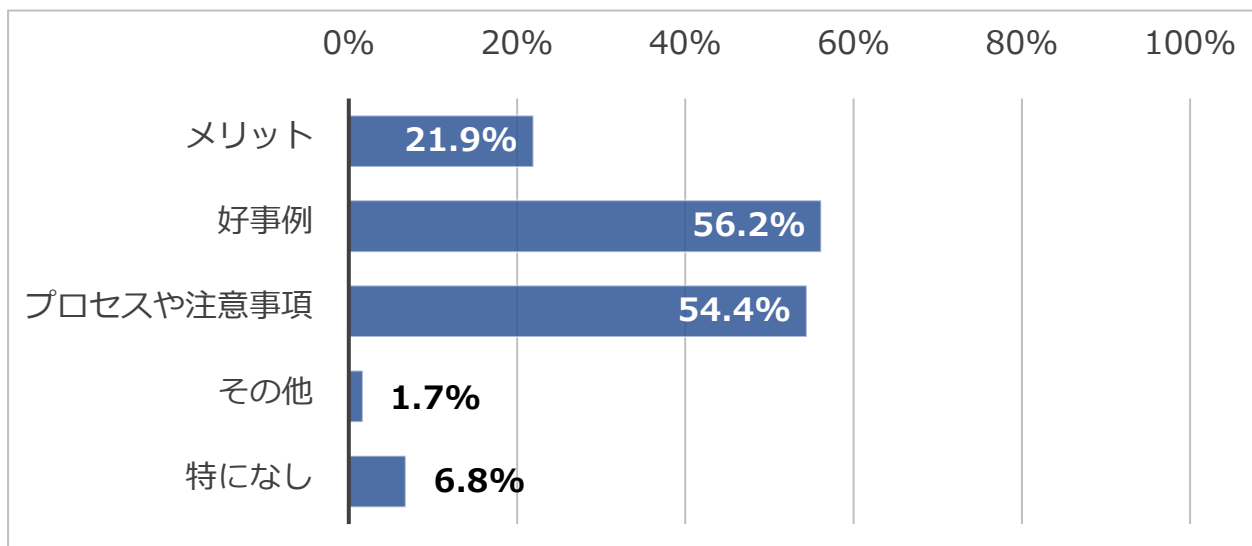
- 「一般職」、「係長職」においては、「どのように配慮したらよいかわからない」と回答した人の割合が最も高い。
- 「係長職」においては、「必要性を感じない」が2番目に高く、全体より10%以上高い。
- 「管理職」においては、「時間・人力的余裕がない」が45.5%と最も多く、全体より30%以上高い。



(7) UD 実践のためにどんなことが知りたいか

① 回答内訳

○「庁内や他自治体、民間等の好事例」が 56.2%と最も多く、「具体的なプロセスや注意事項」が 54.4%、「取り組むことによるメリット」が 21.9%と続いた。



(8) 区の UD に関する取り組みで、参考になったもの

① 回答内訳

○「ガイドライン」が 31.1%と最も高く、「UD ニュース」(23.8%)、「気づくかな」(20.6%)と続いている。

○「ない」と回答した割合は 21.7%となった。

